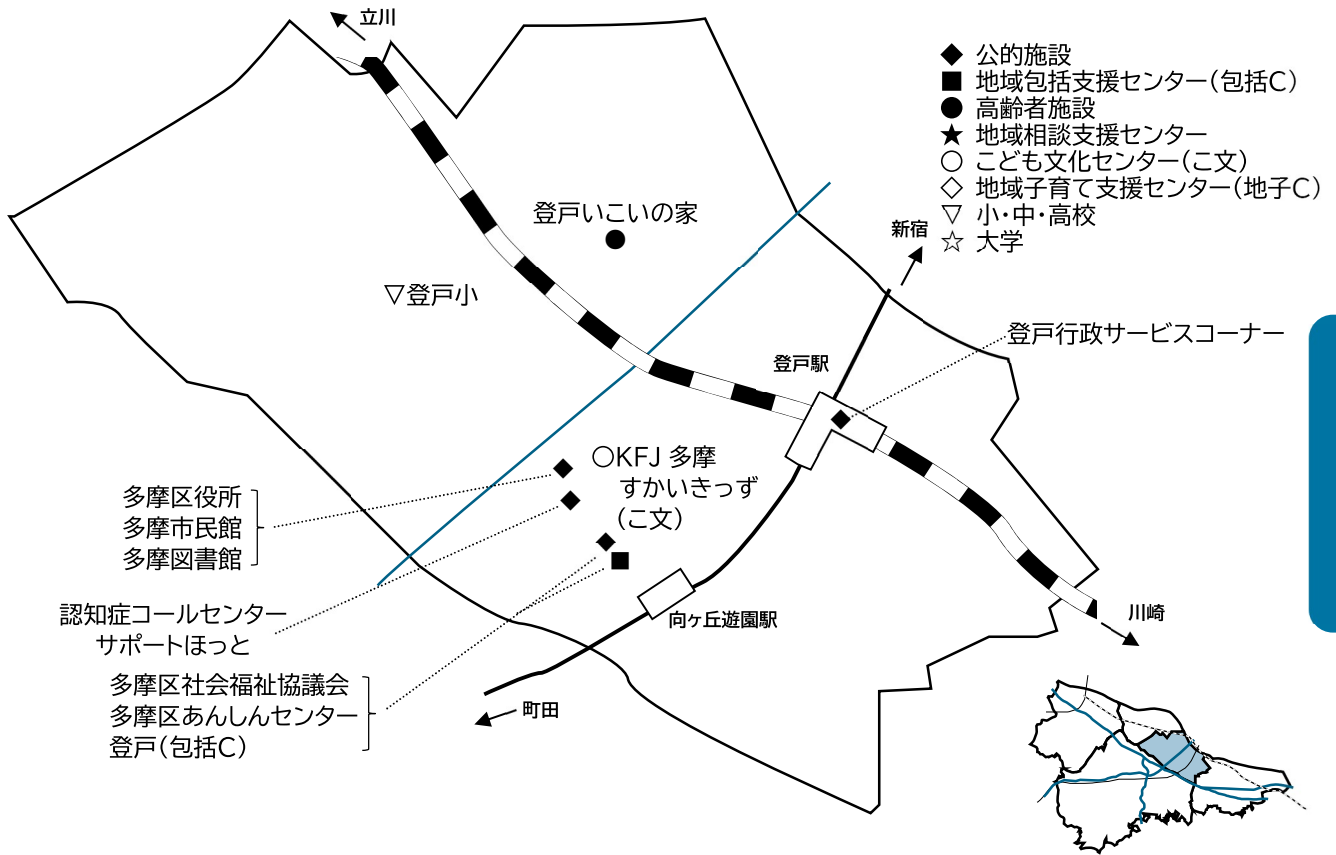


登戸地区 地区内の町丁名：和泉、登戸、登戸新町

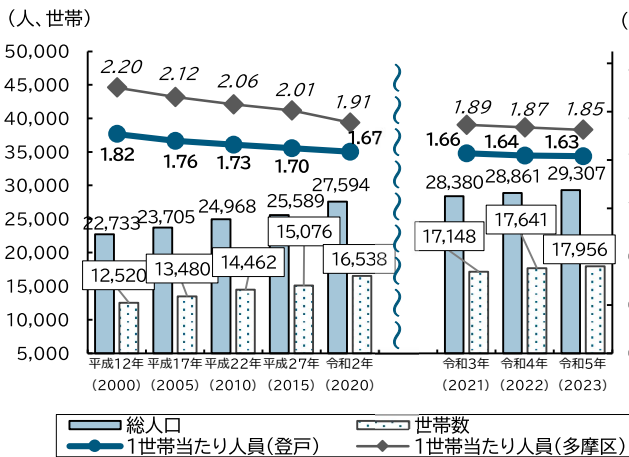
■ 地区データ、地域資源マップ

人口	29,307人	0～14歳人口	2,882人
世帯数	17,956世帯	15～64歳人口	22,402人
高齢化率(65歳以上)	13.7%	65歳以上人口	4,023人

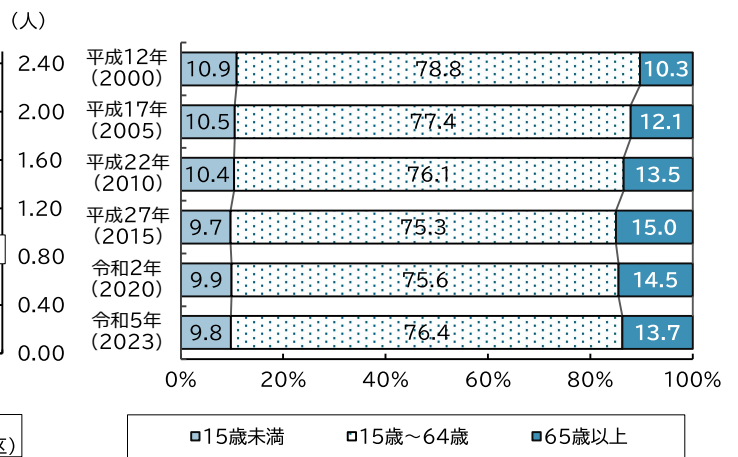
(令和5年9月末現在)



登戸地区の総人口と世帯数の推移



年齢別人口割合の推移



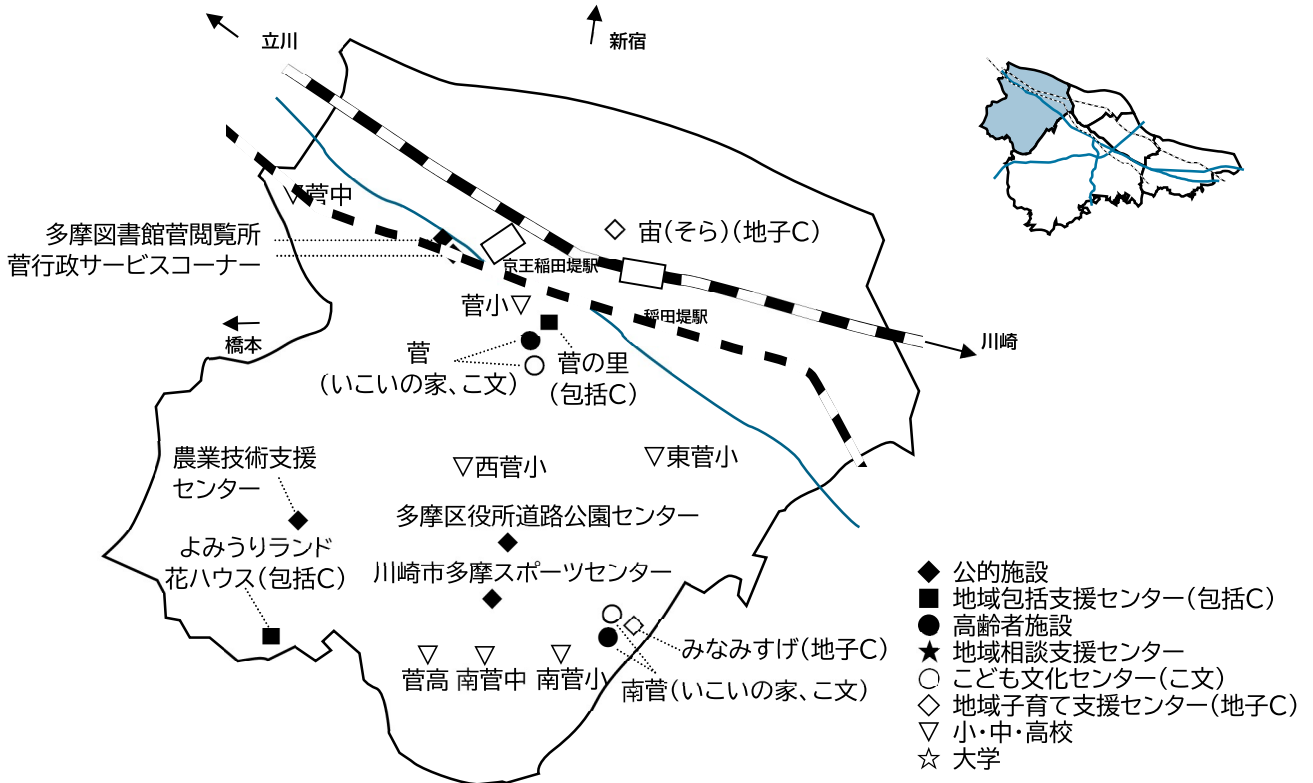
資料：川崎市統計情報「町丁別世帯数・人口」「町丁別年齢別人口」(各年9月末日現在)

菅地区 地区内の町丁名：菅1～6丁目、菅稲田堤1～3丁目、菅北浦1～5丁目、菅城下、菅仙谷1～4丁目、菅野戸呂、菅馬場1～4丁目

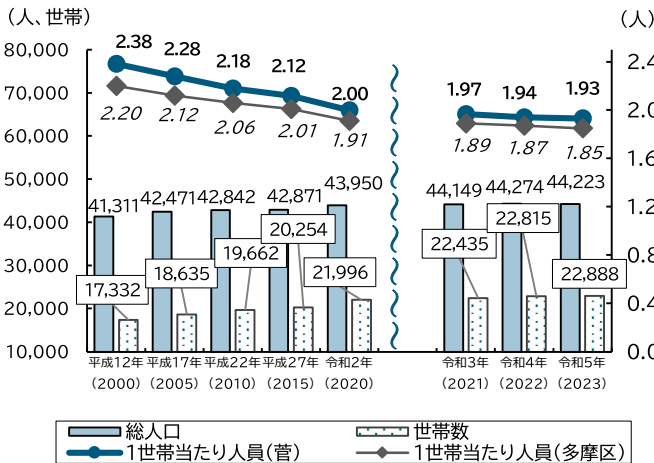
■ 地区データ、地域資源マップ

人口	44,223人	0～14歳人口	4,805人
世帯数	22,888世帯	15～64歳人口	30,534人
高齢化率(65歳以上)	20.1%	65歳以上人口	8,884人

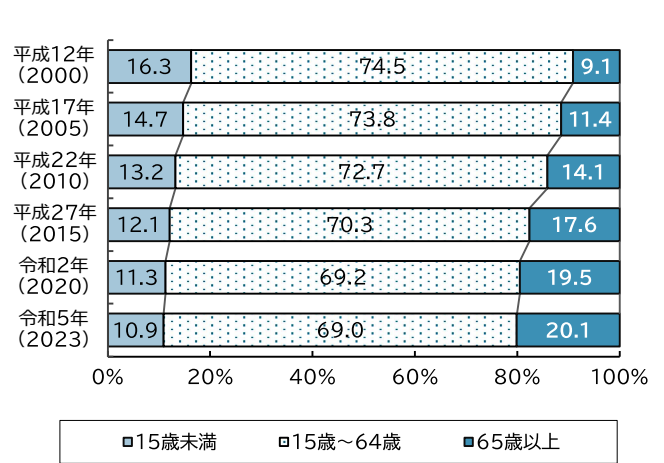
(令和5年9月末現在)



菅地区の総人口と世帯数の推移



年齢別人口割合の推移



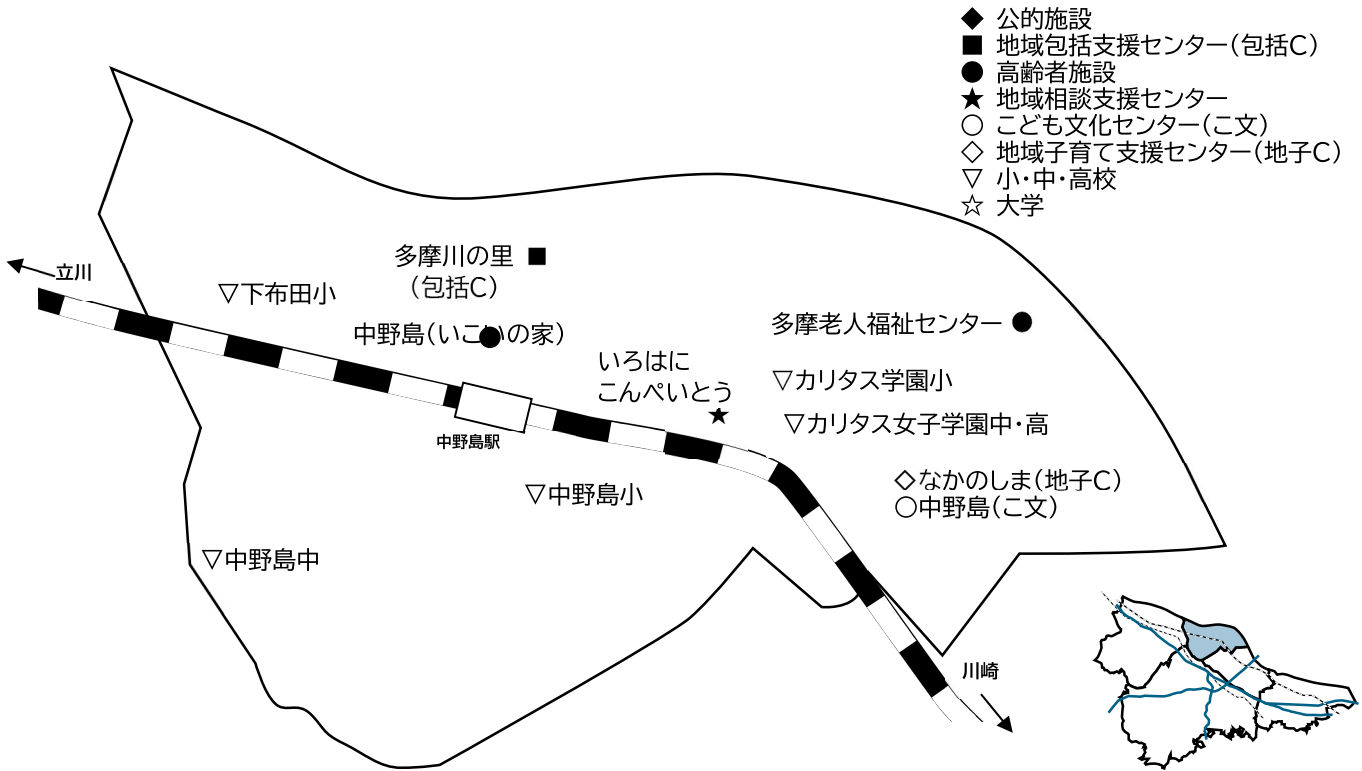
資料：川崎市統計情報「町丁別世帯数・人口」「町丁別年齢別人口」(各年9月末日現在)

中野島地区 地区内の町丁名：中野島、中野島1～6丁目、布田

■ 地区データ、地域資源マップ

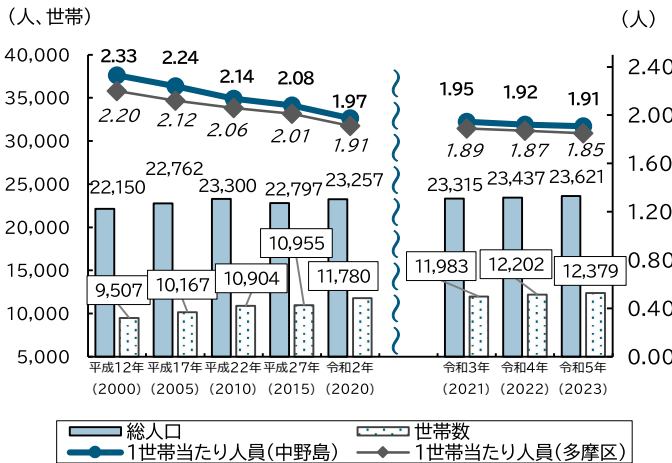
人口	23,621人	0～14歳人口	2,422人
世帯数	12,379世帯	15～64歳人口	15,695人
高齢化率(65歳以上)	23.3%	65歳以上人口	5,504人

(令和5年9月末現在)

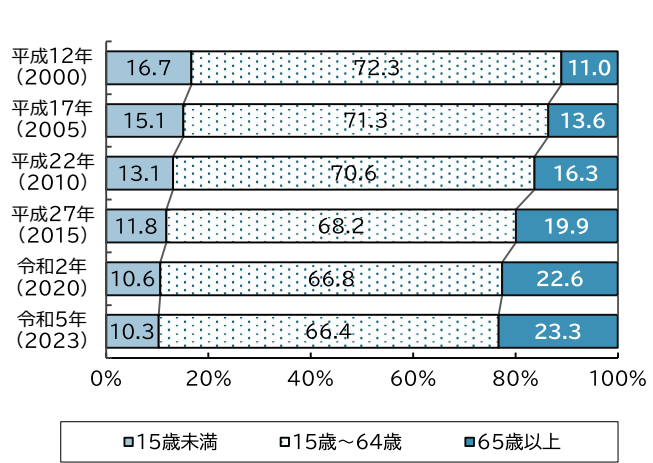


たまくを知る

中野島地区の総人口と世帯数の推移



年齢別人口割合の推移



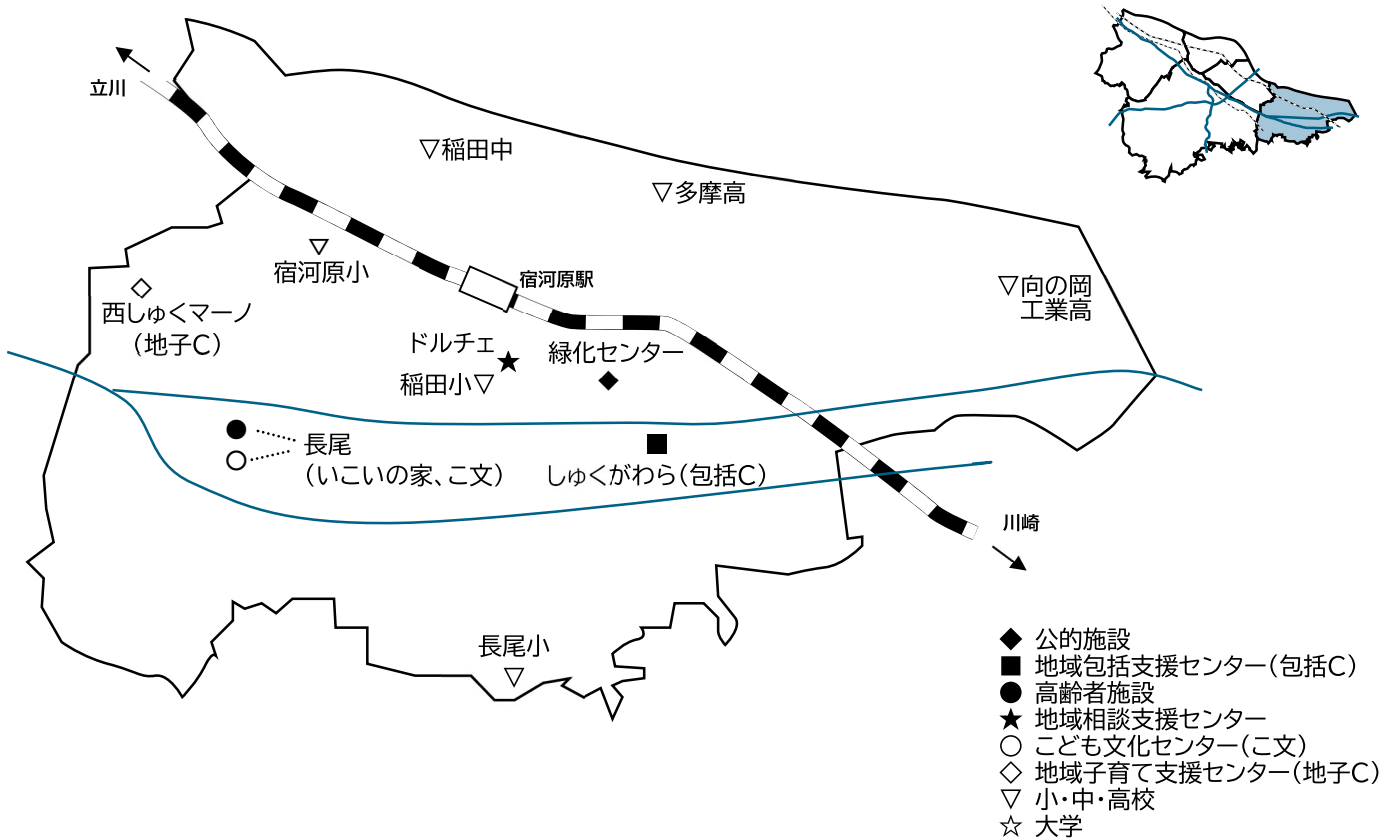
資料：川崎市統計情報「町丁別世帯数・人口」「町丁別年齢別人口」(各年9末日現在)

稲田地区 地区内の町丁名：宿河原1～7丁目、堰1～3丁目、長尾1～7丁目

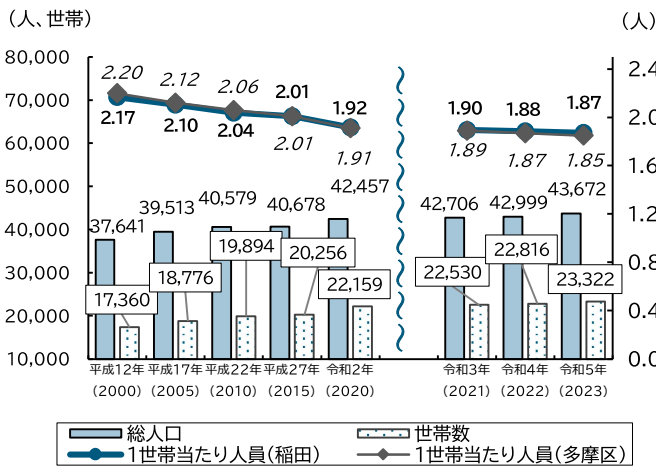
■ 地区データ、地域資源マップ

人口	43,672人	0～14歳人口	4,960人
世帯数	23,322世帯	15～64歳人口	30,380人
高齢化率(65歳以上)	19.1%	65歳以上人口	8,332人

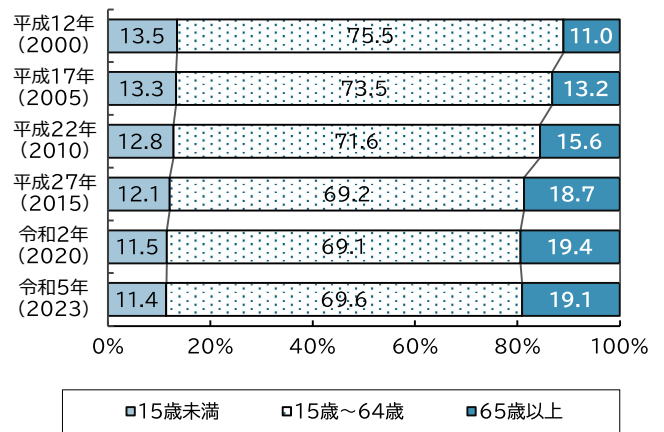
(令和5年9月末現在)



稲田地区の総人口と世帯数の推移



年齢別人口割合の推移



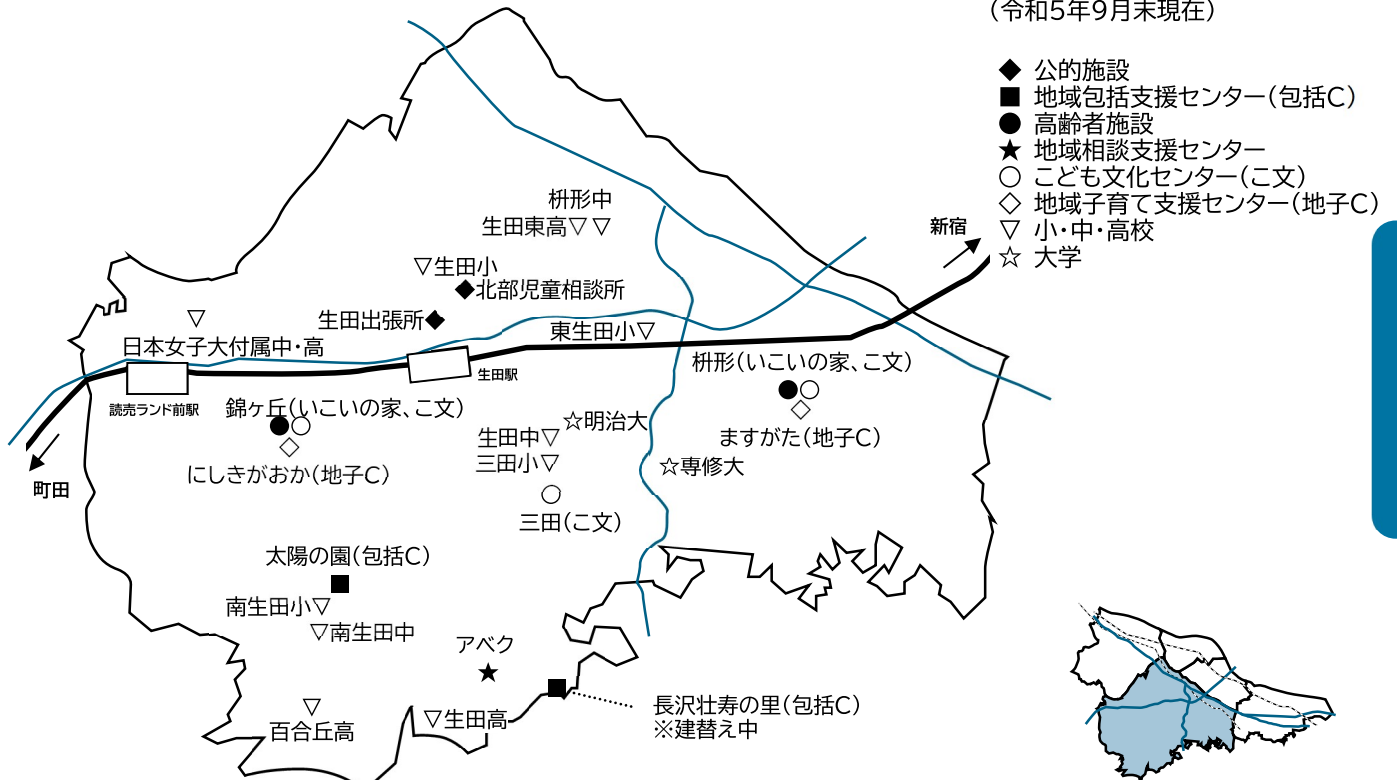
資料：川崎市統計情報「町丁別世帯数・人口」「町丁別年齢別人口」(各年9月末日現在)

生田地区 地区内の町丁名 : 生田1~8丁目、東生田1~4丁目、東三田1~3丁目、
 枅形1~7丁目、栗谷1~4丁目、寺尾台1~2丁目、
 長沢1~4丁目、西生田1~5丁目、三田1~5丁目、
 南生田1~8丁目

■ 地区データ、地域資源マップ

人口	75,698人	0~14歳人口	8,095人
世帯数	40,293世帯	15~64歳人口	51,353人
高齢化率(65歳以上)	21.5%	65歳以上人口	16,250人

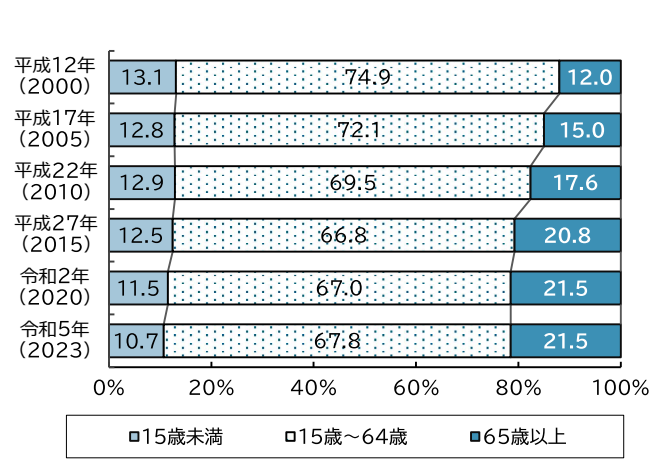
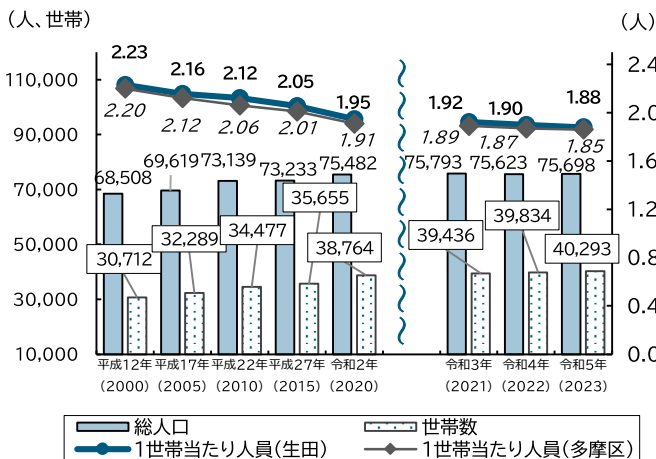
(令和5年9月末現在)



たまくを知る

生田地区の総人口と世帯数の推移

年齢別人口割合の推移



資料: 川崎市統計情報「町丁別世帯数・人口」「町丁別年齢別人口」(各年9月末日現在)

05 生田緑地で開催される「全国都市緑化かわさきフェア」の取組

～みどりで、つなげる。みんなが、つながる。～

「全国都市緑化かわさきフェア(かわさきフェア)」は、みどりがもたらす快適で豊かな暮らしがあるまちづくりを進めるため、昭和 58(1983)年から毎年、全国各地で開催されている「花と緑の祭典」です。

川崎市は令和6(2024)年7月1日に市制100周年を迎えます。これまでの歴史や資源、強みなどを振り返り、次の100年に向けて、みどりについて皆さんと一緒に考え行動することで、誰もが暮らしやすく住み続けたいまちへとつなげていくため開催します。

【開催期間】

令和6年10月19日(土)～11月17日(日)

令和7年3月22日(土)～4月13日(日)

【会場】

生田緑地、富士見公園、等々力緑地、まちなかみどりスポットなど市内全域



生田緑地・エリアのコンセプト「歴史・文化」× みどりに

東口～日本民家園～中央広場
タケを活用した空間演出と資源の活用発信



生田緑地ばら苑
ばら苑の歴史を紐解きながら、新たなばら苑の魅力づくりを市民協働によりチャレンジ



メタセコイア林～岡本太郎美術館～西口広場
緑地の資源を活用し、自然を感じ、楽しむ体験の展開



中央広場～かわさき宙と緑の科学館
生田緑地の誇る自然資源と市民活動の発信



出展「全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画」

かわさきフェア会場の1つ「まちなかみどりスポット」(多摩区での取組)

区内の様々なみどりとオープンスペース(例:川崎市緑化センター、稲田公園、多摩川緑地、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺)を活用し、日常の活動や取組をかわさきフェアを通じて発信し、かわさきフェアを盛り上げる一体感を醸成します。また、まちなかみどりスポットそれぞれをつなぐ取組として、身近なみどりを知り、楽しみながら回遊できる仕掛けを実施します。



【地域住民による花壇づくり】



川崎市地域包括ケアシステム
広報キャラクター
あいちゃん

地域包括ケアシステムを略して

『地ケア』

川崎市では、子どもから高齢者まで、
誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていけるように、
地域でのつながりや支え合いの仕組みづくり
(「地域包括ケアシステム」略して「地ケア」)を進めています。

生きがいつくりや健康づくり、介護予防などの「自分自身のケア(自助)」と
周りの人同士の助け合い、町内会・自治会活動、ボランティア活動などの
「みんなの支え合い(互助)」を一人ひとりが進めていくことが第一歩です。

多摩区では、地域の方が取り組まれている
様々な自助・互助の取組を紹介する
「川崎市多摩区地域包括ケアシステム広報誌 地ケア TAMA」を
発行しています。

本計画のコラムとして、
「川崎市多摩区地域包括ケアシステム広報誌 地ケア TAMA」に
掲載した取組を紹介させていただきます。

※掲載内容やインタビューアーの肩書等は、発行当時のものです。

【子ども・子育て】



多摩区でプレーパークをやっちゃおう会 (略称:たまプレ)



Play park



「子どもたちにとって大事な、“遊び場”をつくりたい。」その思いで平成16年に発足

平成15年に多摩区で子育て中のお母さんを対象に、子どもの遊びの重要性を学ぶ講座が開講され、参加した有志のメンバーが、「子どもたちにとって遊び場が大事」、「子どもたちの遊びの環境を保障していきたい」という思いから、翌年2月に「多摩区でプレーパークをやっちゃおう会(以下たまプレ)」を発足させました。

日本でも批准された「子どもの権利条約」の考えも踏まえながら、“子どもが自分らしくいられる場所”である遊び場の保障と、子育てに関する悩みを聞くなど、子どもにとって一番の環境である保護者のサポートを同時に行いながら、開催回数を増やして少しずつ内容を充実させてきました。



安心してチャレンジでき、失敗もできる場所でありたい

現在、たまプレは中野島中央公園で月に5~6回遊び場を開いています。このほか三田・生田、宿河原、堰にも地域のお父さん、お母さんたちによる遊び場が広がっています。集まるのは主に小学生で、幼児の親子、さらには高齢者の方もみえて、20~30名が遊んでいます。誰でも来たいときに来て、帰りたいときに帰れます。遊び方は、毎回そのときのフィーリングで、木工やロープ、編み物などさまざまな遊びの素材、道具があるので「今日はどうする?」と質問して子どもたちが決めています。

たまプレは“子どもも大人も安心してチャレンジでき、失敗もできる場所”です。

また、保護者同士の交流の場、高齢者の方が子どもとふれあい、元気をもらえる場にもなっています。



「自分らしく、ありのままでもいい。それが遊び場。」



遊び場のネットワークをつくりプレーパークをもっと増やしたい

子どもたちの「また来たい!」という笑顔やお母さんたちの「親ではなかなかさせてあげられない遊びや体験ができる」、「もっとこの場を早く知りたかった」という声が活動の原動力です。自分らしくありのままがいい、やりたいことを思いっきりできる場所は、私自身が欲しい場所でもあります。

今後は、活動の継続と同時に、市内の遊び場を開催しているグループとのネットワークをつくり、情報交換や遊び場をもっと増やしていく動きにつながりたいです。小さな公園の片隅でもいいので、小学校区に1つプレーパークができればいいなと思っています。また、子育てを終えた後も遊び場の運営に参加してもらえ、次世代の遊び場を担っていくスタッフも育てていきたいです。

“自分は自分で大丈夫”
その肯定感が
生きるチカラになる。
そう感じられる遊び場を
もっと増やしたいです。



たまプレ▲
LINE公式
アカウント

稲田光世
代表



遊びに来てみませんか?

予約や申し込み不要!時間内の出入り自由。たまプレは子どもたちが自由にのびのびと遊ぶ遊び場です。虫取り・水遊び・木工・ペーゴマ・季節の工作...遊びのきっかけを用意しています!

*「すいたま~」: 毎週水曜日 15~17時

*「どったま~」: 毎月第4土曜日 13~17時

いずれも 場所: 中野島中央公園
(祝祭日・悪天候・猛暑日・お正月を除く)

そのほかの遊び場については

多摩区 外遊び 検索



詳細はHP▲



多摩区子ども会連合会



Federation of children's association



地域と子どもたちがつながる 多彩なイベントを実施

川崎市は全国的に見ても子ども会の活動が盛んです。多摩区子ども会では5つの地域ごとの活動のほか、区や市のイベント参加など、様々な活動を行っています。町内会などと連携し、地域に根ざしたイベントも多く、地域と子どもたちのつながりの場としても機能していると感じています。

コロナ禍で行動制限が伴う時期ですが、工夫を重ねて交流の機会を減らさないようにしています。子どもと大人のアイデアで乗り切っていきたいです。



子どもたちの成長を 地域で見守り、支えていく

時代や社会が変化していくのと同じように、子どもたちの暮らす環境も変わりつつありますが、子ども会の役割の根底にあるものは、設立以来一貫しています。それは、「家庭と学校の間にある組織として、地域で子どもたちを育て、見守り、支えていく」ことです。様々な遊びやイベント、世代を越えた交流を通じて、子どもたちの健全な心身の育成をサポートできる環境をつくり続けていきたいです。

「子どもたちによる子ども会」であることを大切に、私たち大人はあくまでもバックアップする立場です。小さな子どもたちが、リーダーシップをとって活躍するお兄さんやお姉さんに憧れ、先輩たちのようになりたいと自主的に成長していく、そんな関係を築いてほしいと思います。



様々な経験が 可能性を広げるきっかけに

野球大会をはじめとするスポーツ活動、キャンプなどの野外活動、社会見学、文化や伝統芸能に関するイベントなど、子どもたちが自分の興味がある活動に参加できるよう、幅広い活動をしています。中でも羽根つき大会は、川崎市が日本で唯一公式ルールを定めて行っている珍しいイベントです。



また、多摩消防署と連携して、小学校高学年の選抜会員からなる「多摩地区少年消防クラブ」を結成し、消防署の訓練体験や防災施設の見学などを実施しています。防災意識を高める機会となり、いざというときに対応できる力が育まれています。

ジャンルにとらわれず、様々な経験をしてもらうことで、そこからどんな才能が輝くか見守りながら、子どもたちの可能性を広げていきたいと思っています。



自由に遊び、多様な経験をすることで自主性が育つ

子どもたちの
好奇心を引き出し、
健やかに成長していく
姿を見守っています



川崎市子ども会連盟副連盟長
多摩区子ども会連合会会長
大津博之さん

子ども会の活動に参加しませんか？

子ども会は多摩区に住んでいる18歳までの子どもなら誰でも参加可能です。加入後も、どんなイベントに参加するかは自由です。興味のあるテーマからはじめて、地域との繋がりを広げてみませんか？ 子どもたちをサポートする18歳以上の指導者、リーダーの参加もお待ちしております。

連絡先：多摩区子ども会連合会 大津博之会長
☎ 044-900-2483 HPはこちら▶





カフェを利用した子ども食堂の様子

多摩区ソーシャルデザインセンター(多摩SDC)

子ども食堂



Children's cafeteria



区役所内での子ども食堂の様子



子ども食堂を通じて 住民同士の交流を

「この子ども食堂が、子育て世代の交流の機会や、大学生をはじめとする若者たちの地域参加のきっかけになれば」との思いから、2020年に運営を始めました。

川崎市には様々な理念で運営している子ども食堂があります。その中で私たち多摩区ソーシャルデザインセンター(多摩SDC)では、“地域の課題を解決するための中間支援を行う組織”という強みを生かした子ども食堂をオープンしています。



誰もが気軽に集まれる 地域の食卓としての役割

地域に暮らす人たちの助け合いのシステム、その入口としてこの子ども食堂があります。こうした場があることによって、小さな子どもを持つ保護者たちが、子育ての悩みの相談や子育て支援制度の情報を得たり、夕食作りを一日休んでのんびりしてもらうことができればうれしいです。また、スタッフたちと会話することで、息抜きや気分転換になるという声もいただいています。

多摩SDCでは、区内5か所で実施される子ども食堂の運営支援をするほか、区役所の一角で子ども食堂を運営しています。カレーの提供が基本ですが、会場によっては独自のメニューも用意されています。子どもだけ、大人だけ



でも気軽に子ども食堂に遊びに来てもらうことで、地域交流が生まれ、新しいつながりが広がっていくことを期待しています。

食をきっかけにして、地域のつながりが生まれる

みんなの話し相手になって 居場所を作っていきたい

大学で学んでいる栄養学の知識と、子どもが好きな気持ちの両方を生かせると思い、子ども食堂の活動に取り組んでいます。運営する多摩SDCでは、他にも様々な地域のコミュニティイベントを主催していて、日常の大学生活では関われないような人たちと一緒に、多様な取組に参加できる面白さを感じています。

子ども食堂でたくさんの子どもたちと関わる楽しさはもちろん、保護者の方々との会話の時間も充実しています。子ども食堂に何を

求めているかは人それぞれです。私たちスタッフはそのニーズをじっくり聞き、みなさんとよい時間を共有していきたいです。



多摩区ソーシャルデザインセンター
学生代表 堀川華那さん



子ども食堂を
人と人が新しく
つながる場所に
していきたい



多摩区ソーシャルデザインセンター
事務局長 俵隆典さん

利用する人、運営する人どちらも大歓迎

毎月一回多摩区役所やデイサービス施設、カフェなど、多摩区内6か所で実施しています。食事を楽しみたい子どもや保護者、ボランティアとしてサポートしたい学生、場所を提供したいお店、どなたでも声をかけてください。また、食材提供などの寄付も募集中です。

連絡先：多摩SDC事務所(多摩区役所1階)
(平日10~16時)
☎ 044-281-4422
✉ toiwase@tama-sdc.com



HPはこちら

【子ども・子育て】



おしゃべりサロン 「いちにのさん!」



子どもや子育て世代と 地域の高齢者の接点に



これまで稲田小学校で開催していた‘子育てサロン「いちにのさん!」’を、新たなボランティアスタッフにより、2022年4月から「長尾老人いこいの家」で多世代交流を目的としたおしゃべりサロンとしてリニューアルして再開しました。

長尾地域において、小さな子どもを持つ家庭をサポートできる環境をつくっていくため、まずはこのサロンで、子どもや子育て世代と地域の高齢者が交流するきっかけとなるよう開催しています。



世代を越えて楽しめる イベントで交流を深める



みなんでおしゃべりをしながら気軽に集えるサロンを開催しています。アロマオイルでのハンドマッサージやわらべ唄の紹介、おもちゃ作りなど、親子でも楽しめるイベントを企画して参加者をお迎えしています。



参加者のみなさんに季節を感じてもらえるようなイベントも増やしていく予定です。このサロンを地域の方々が憩える新しい居場所にしていきたいです。



幅広い年齢の人たちが 集う憩いの場



子どもや子育て世代の交流だけでなく、子育てサロンを運営するボランティアスタッフ、そして人生の先輩であるいこいの家の利用者さんたちが、気軽に集まり、会話ができる場が「いちにのさん!」です。多世代だからこそ

得られる情報、話題を楽しんでもらえたらと思っています。

ボランティアスタッフには学生や定年退職された方のほか、元保育士や子育て経験を持つ方などが参加しているので、子育ての悩み、つらさ、孤独感なども共感できると思います。子どもをボランティアスタッフに預けてちょっと一休みし、参加者同士でお話をする時間を楽しんでいただけたら幸いです。

また、子どもたちとの触れ合いは、地域に暮らす高齢者の方々にとって元気の源です。ここに集まるみなさんが、それぞれにできることを持ち寄り、影響し合うことで、多くの交流が生まれていくことを願っています。



おしゃべりサロン「いちにのさん!」
ボランティアスタッフと
社協職員のみなさん

高齢者と子どもをつなぎ
多世代交流を育む
サロンです

おしゃべりサロン「いちにのさん!」に参加しませんか?

長尾老人いこいの家で毎月一回開催。就学前の子どもと保護者同士の交流に加え、いこいの家を利用している高齢者の参加も可能です。広いホールでおしゃべりをしたり、イベントに参加したり、のびのび過ごせる環境を用意しています。ボランティアスタッフ希望の方もお問い合わせください。



開催日時：原則毎月第4水曜日
午前10時～11時30分
連絡先：川崎市多摩区社会福祉協議会
☎ 044-935-5500



HPはこちら

長尾地区にはこちらのサロンもあります

長尾親と子のひろば

開催日 毎月第3水曜日(8月は休み)
場所 長尾子ども文化センター
対象 1歳6か月までのお子さんと保護者

自由なおしゃべり、友達作り、手遊び、
保健師による育児相談などをおこなっています。
気軽にご参加ください(予約制)。

連絡先：多摩区役所地域支援課 ☎ 044-935-3264

誰もが気軽に集える、憩いの場を目指して

たまくを知る

グラウンドゴルフ委員会



軽い運動として最適なグラウンドゴルフ

グラウンドゴルフは、最長でも1つのコースが50mという短さのため、幅広い世代と一緒に楽しめるスポーツです。

一日の練習で3000歩ほど歩くので、運動量としてもちょうど良い点が人気の理由です。皆さんホールインワンを目指し、和気あいあいと活動しています。



気軽に楽しめるグラウンドゴルフ 区内各地に仲間ができます

年に数回の大会で実力を試す

練習頻度は週に1回から、多いところでは毎日練習をしたり、練習場所も小学校の校庭を借りて練習する老人クラブなど、環境は様々ですが、練習を楽しみにしている参加者ばかりです。

多摩区の大会や市の選抜大会など、日頃の練習の成果を競う機会もあります。大会では地区外の参加者との交流もあり、同じ趣味をもつ仲間の出会いの場にもなります。

今後は、地域住民が集まるイベントで、グラウンドゴルフのゲームを企画し、多くの方に魅力を知ってもらいたいです。

グラウンドゴルフ委員会
委員長 五嶋功光さん

副委員長 本田秀士さん



多摩区 老人クラブ 連合会

多摩区には50以上の老人クラブがあり、2600名以上の会員が所属しています。各老人クラブの活動のほか、7部15の委員会で構成され、活発に活動をしています。

HPはこちら



連絡先：多摩区老人クラブ連合会 会長 楠 ☎044-922-3537

登戸新町新生会



毎日のラジオ体操で地域との関わりを深める

私たちの老人クラブでは、地域の様々な活動と関わりを持つことを大切にしています。活動の一つとして、月～土曜日の午前6時25分から登戸第2公園でラジオ体操を行っています。毎回15名程度の参加者があり、登戸新町以外の地域の方も参加しています。夏休みの期間中は子ども会と連携し、一緒に体を動かしています。



子ども会との連携で、老人クラブの活動と交流の幅が広がっています

様々な活動の中から好きな活動に参加できます

ラジオ体操の他にも月に1回、公園の清掃活動を子ども会と実施し、公園を大切に使うことを心がけています。また、踊りやコーラスなど多様な活動を行っているのので、興味のある活動に無理なく参加することができます。

登戸新町新生会にグラウンドゴルフのクラブはありませんが、登戸地区全体のクラブに所属している方もいて、環境が充実している稲田多摩川公園での練習に参加しています。

老人クラブに参加することで、活動の情報が得られるので、自分に合った活動に参加してみませんか。

登戸新町新生会
副会長 小瀧淳さん

会長 飯田静江さん

